View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Tokushima University Institutional Repository

特　集：徳島県の医療と教育：その現在と未来

三好病院の目指す医療と人材育成

住　友　正　幸
徳島県立三好病院院長

徳島県西部圏域における医療の最大の問題は人的不足と言われる。公的病院は3施設，診療所は6施設で，旧郡内での支援システムはあるが，十分とは言えない。山間部の診療所は自治医大学卒業生により，どうにか診療が継続されている現状である。

平成20年度に徳島県立三好病院，つるぎ町立半田病院，三好市立三野病院の間で，「徳島県西部医療圏における適正な医療を確保するための協定書」が締結され，医療の相互応援を行うと共に，「徳島県にし阿波3病院連携後期臨床研修医募集事業」が創設されて研修医の獲得と教育を目指しているが，まだまだ道険しいと言わざるを得ない。

西部圏域における人的不足は確かに深刻である。しかし，現在の三好病院を顧みれば，医療の問題は単に医療者の不足だけではないと思われる。そこには地域の歴史に基づく地場産業の問題，人口流出に伴う被医療者流出，続発的な医療者の減少，そしてincentiveの低下に伴う信頼関係の低下など，circurus vitiosus自体が複合的にもたらされた結果と言える。そこには提供したい医療と，必要とされる医療とのミスマッチはなかったか。病気・病態を診て，人や地域を診るといった全人的医療はどうであったか。病院側としても検討すべき点は多い。いま，人としてのやさしさや個人の尊厳など，臨床倫理的諸問題については強く求められているところである。

また，連携の未成熟の問題もある。急性期医療において地域完結型の医療は自明の理であるが，そのためには地域の生活や環境の理解は大変重要である。転院はMSWだけの仕事として行われるべきものではないだろう。若い世代の県外への流出，老々介護が常態化している中，一病院完結を希望する住民との対話や啓発も必要である。そして，地域としてのケアプランを策定にも病院が関わり，総ての医療者が地域の包括ケアの方向性を知る必要があると考えている。

一方，医療者の環境からみれば，居住や病児保育，託児所の問題もある。女性医師が増加する中，子育て環境の整備，病院内の女性医師の居住環境整備も重要仮題である。

働く者が満足できなければ良い医療は生まれない。その地に生まれ，育まれ，老い，そして人生を終え行く地域住民に寄り添い，守る。そして病院の医療方針に賛同してもらえる医療者を募り，地域の中で育てる。メディカルゾーンからの支援への感謝はもちろんであるが，地域を支えようとする，そうした病院の熱意こそが，いま最も必要とされていると思っている。